

如月 愛南文芸

篠南川柳会

おしゃべりもうっかりすれば本音で
うっかりはダメよダメ事故のもと
うっかりし予約忘れて米と水
揚げ油うっかり忘れて火が付いた
婆が逝きあとに残ったつるし柿
柿はみな袋の中で酔いつぶれ
柿一つ半分づつの老二人
寒風に耐えて熟女のつるし柿
花束を抱いて涙の退職日
抱きかかえ母の介護で暮らす日々
抱くたびに重くなる孫うれしさよ

菊川俳句会

富士山を七色に染め初日の出
農辞める年延ばしつつ鋤初め
恙なく卒寿米寿の雑煮食ぶ
拍子木の音も消しゆく虎落笛
風花の乱舞の景や飽きもせず
窓枠をキャンバスにして雪景色
波静か夕日に染まる淡き雪
松竹梅初夢ならば竹でよし

はじめまして。赤ちゃん。

12月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

12月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

前田由紀子
芝田 憲蔵
松本 安子
篠原みち子
松本もとお
射場ちずる
田中すみ子
田中 保美
木本 清子
谷口千代子
田村 京子
宮下 熊夫
井関 満子
井関 禎美
小野山シマ子
村尾加都子
長田 高明
長田千恵美
中川 一喜

さららび短歌会

結び昆布ころころしあわせ積み上げる
姉弟で肉はまだかと鍋つつく
友は笑みおでんの中にしみる餅
冬の町イルミネーション散らばって
年はまだ明けておらぬと受験生

森 早織梨
橋本ひかる
小野山果林
鱒 瑞貴
宮本 翔吾

戦場へ兵士送りし鉄道の跡地に山茶花散りて冬なり
コスモスの広い畑の真ん中にぼつりと座る我が子可愛い
久びさのグラウンドゴルフに家事忘れ打球も軽くストレスも飛ぶ
祖父の世の一本残りし八朔柑消毒もせずしりと成る
もしかしてうた生まれしか先まろき鉛筆置きて辞書を引く夫
アベノミクスの豊かさ我まで届かず年々年金細りてきたり
亡き夫の将棋いつもの場所にあり歩の駒ひとつ失せたるままに
日赤奉仕団女性方メイクたまいきり不美人われメイクよく見ゆるか
検査終えカルテを見つつ沈黙の医師はようやく「よし」とうなずく
「秋の陽はつるべ落とし」とう我が家は洗濯物のとり込みいそがし
若き日に夫の作りし踏み台を頼りに暮の掃除始める
干し柿の影の障子に揺れにつつ選挙公約たんねんに読む
ばあちゃんも昔女やったのそんなことを思っては化粧している
賑やかになじみの顔の並びる温泉行きのコミュニティバス
差し出せばすべて食べると口を開く一歳半の白き歯四本
レニングラードより嫁ぎ来しユーリアに子供の生れて「望」と名付く

藤井 拓
岡垣 美子
山崎 能子
前田 昭夫
前田 知子
澤近 正弘
前田 充
宮本ヨリ子
岩村千代子
扇野八代子
水野美代子
松本マス子
木本 清子
河上 明美
安村寿美子
吉田 信保

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。